

## 第一支部

### 第一支部情報

#### ア. 28年度第1回役員会

- (ア) 日 時：平成28年8月2日(木) 19:00～
- (イ) 会 場：JCHO 埼玉メディカルセンター
- (ウ) 参加人数：9人
- (エ) 内 容：健康まつりについて  
次回以降の勉強会について  
支部合同勉強会について

#### イ. 浦和区健康まつり

- (ア) 日 時：平成28年11月6日(日)
- (イ) 会 場：浦和コミュニティセンター(浦和駅東口コンナール10階)
- (ウ) 主 催：浦和区役所保健センター
- (エ) 協 働：アシスト浦和21
- (オ) 内 容：
  - (1) 医療で用いる放射線検査についての説明
  - (2) 骨密度測定の実施

# 浦和区健康まつり ~健康で共に支えあうまちづくりのために~

日時:11月6日(日) 10時~15時 会場:コムナーレ10階 浦和コミュニティセンター

開催内容		
	※講座等の実施時間は、10月1日より市ホームページでご覧になれます。	
生活習慣病予防	① あなたの骨は大丈夫? 骨密度測定と放射線医用画像展	
	②健康・体力測定、ユニバーサルデザインフード紹介、服薬補助ゼリー紹介 他	
	③「知って得する高血圧の話」(医師講座)「姿勢で変わるあなたの生活!」(ストレッチ) ※	
歯・口腔の健康	④歯の健康相談、口臭測定、口内細菌測定、ストレスチェック測定	
栄養・食生活	⑤食後血糖値の上昇を緩やかにする食品の展示及び試食	
	⑥食生活を考えよう~子どもも大人も高齢者もみんなで一緒に健康づくり~	
	⑦「お肌の健康診断と癒しのハンドマッサージ」、おなかとお肌セミナー	
運動・喫煙・飲酒	⑧乳がん自己触診体験・呼気一酸化炭素測定、健康に関する展示	
	⑨アルコールパッチテスト・薬事相談(薬の飲み方等)・キッズ調剤体験・血圧測定 他	
休養・こころの健康	⑩ハンドセラピーと足裏刺激健康法	
	⑪ なんかすっきりしない... そんなこと そっと 話してみませんか?	
	⑫ 子どもにも安心、安全で痛みのない、はり灸を体験してみませんか?	
	⑬「消費者トラブルにご用心」パネル展示、クイズラリー	
介護・介護予防	⑭ お年寄りや体の不自由な方の困っていることを体験してみませんか	
	⑮ 認知症サポーター養成講座 「埼玉県認知症サポーター証」「オレンジリング」配布 ※	
	⑯ みんなでチャレンジ脳トレ、今年もやります折り紙教室!	
	⑰ 介護・年金・成年後見制度についての相談と情報提供コーナー	
子育て支援	⑱ 親子の絆、思い出手形を作りましょう! シニアの方も歓迎です	
	⑲地域の犯罪や非行の防止、立ち直り、子育て支援活動などの展示	
	⑳ プラバン工作 想像力豊かに、指先を使って心も体も健康に!	
出展団体(番号は出展内容に対応)		
① 公益社団法人埼玉県診療放射線技師会第一地区	⑦ 埼玉ヤクルト販売株式会社	⑮ 浦和区シニアサポートセンター
② アシスト浦和21	⑧ さいたま市浦和区役所保健センター	ジェイコー埼玉・尚和園・スマイルハウス浦和・かさい医院
③ さいたま市国民健康保険課	⑨ 一般社団法人さいたま市薬剤師会	⑯ 生活協同組合パルシステム埼玉
④ 一般社団法人浦和歯科医師会	⑩ 生きがい彩の会	⑰ 領家介護を考える会
⑤ 大塚製薬株式会社大宮支店	⑪ 傾聴みみの会	⑱ 上木崎地区保健愛育会
⑥ さいたま市食生活改善推進員協議会 浦和区ヘルスマイト	⑫ 公益社団法人埼玉県鍼灸師会浦和地区	⑲ さいたま浦和地区更生保護女性会
	⑬ さいたま市消費生活総合センター	⑳ さいたま市立仲本児童センター・ さいたま市老人福祉センター仲本荘
	⑭ 認定 NPO 法人ケア・ハンズ	

問合せ 浦和区役所保健センター ☎048-824-3971 (受付 8時30分~17時15分・平日)  
さいたまコールセンター ☎048-835-3156 (受付 8時~21時・無休)

主催:さいたま市浦和区 協働:アシスト浦和21

このイベントの開催に要する経費は、75万円です。

## 第二支部

### 第2回第二支部勉強会 座長集約

#### GEヘルスケア・ジャパン株式会社講演 座長集約

所沢ハートセンター 柴 俊幸

平成28年度第2回勉強会において、メーカー発表として製品紹介ならびに一般研究発表セッションにてGEヘルスケア・ジャパン株式会社 大川 博和氏よりご講演いただきました。内容は今年4月に日本放射線技術学会総会学術大会(JRC)と並行して行われた国際医用画像総合展(ITEM)において展示されたハイスpekクCTの紹介となった。

GE社のCTは、その技術にとっても興味深いものがあり、2008年に展示された検出器にガーネットを用いたGemstone DetectorやDose Reduction技術となるASiRをはじめ、高速kVスイッチングによるGemstone Spectral Imaging(GSI)、SnapShot PulseやSnapShot Freezeなど、私のように循環器内科を専門に行っている診療放射線技師でなくても一度は触れてみたいと、興味だけではなく診断能の向上と被検者リスクの低減にとっても有用なハードウェア、ソフトウェアを兼ね備えているといえる。

今年度のITEMで展示された機器は「Revolution CT」「Revolution GSI」「Revolution EVO」の、所謂『Revolutionファミリー』と呼ばれる3機種であった。ソフトウェア面では先に記したが、逐次近似応用再構成法はASiR-Vとなりさらに空間分解能を向上させ、頭部、腹部領域で要求される低コントラスト分解能においても向上させることが可能となった。ハードウェア面においても3D Collimatorや電源供給の非接触設計化、超高速のkVスイッチングが可能になったりと、まさにハイスpekク機と呼ぶのに相応しいのではないかという印象を受けた。

中でもRevolution CTは、256列検出器により160mmのカバレッジとしたことで心臓を1心拍での撮影を可能としたこと、空間分解能が0.23mmとなり、従来の分解能では充分とはいえなかったStent内腔評価にも期待が持てる。講演の中冠状動脈における側副血行路の提示があったが、これは従来の認識であった「細かいからCTでは描出できなかった」ではなく、「側副血行路が描出される心位相が異なっていた」という可能性が出てきた。本装置はノンヘリカル撮影となったことで全心位相のデータ収集が可能となった。ということであった。

また本装置では「ヘリカル撮影は必要ありません」という報告があった。私のように診療放射線技師になった時から多列のヘリカル撮影が当たり前で、ヘリカル撮影によって心臓を10数年撮影してきた私にはとても衝撃的な報告であった。不整脈に対してはPitch Factorを小さくし、不整脈と心周期を考えながらECG Editorを駆使してなんとか画像を提供してきた人間にとっては、不安を通り越して不信感すら覚えるほどであった。しかし、考えてみれば全心周期を撮影、さらに0.28秒の高速回転が可能であれば、ヘリカル撮影は確かに不要となるのかもしれない、ましてや低心拍症例においても冠状動脈の位置不一致によるバンディングアーチファクトを目にするたびに徐々に感じてきた。

自分がメインに行っている検査だからというわけではないが、臨床において私のような循環器内科の専門施設のCTは、普段外から見えない領域を描出するという点で画像診断の花形であると考えており、また医師にそう思ってもらえるように日々精進している。そんな中でCTの発展は喜ばしく、自施設で稼働はしていなくともその情報収集は重要であり、また最新ソフトウェアに自分の使っているCTでどこまで近

づけるのかという研究のモチベーションにもなる。

今回ご講演いただいたGE社だけではなく、全ての機器メーカーには今後もさらなる発展を期待するとともに、このような地域に近い勉強会での情報提供を今後もお願いしたい。

## 「胃X線検査におけるピロリ菌感染判定方法について」座長集約

パークタウンクリニック 矢幅 俊一

平成28年度第2回勉強会の一般研究発表において、大宮シティクリニック 堀越 隆之氏による「胃X線検査におけるピロリ菌感染判定方法について」という発表があった。

近年、胃がん発生の最大の危険因子はピロリ菌の感染であるといわれ、ピロリ菌感染の有無とペプシノゲン(PG)値による胃粘膜萎縮の程度を組み合わせ、胃がんリスクをA群～D群まで4段階に分類する胃がんリスク検診、あるいはABC検診と呼ばれる検診が多く行われるようになってきた。

ピロリ菌の感染診断には、迅速ウレアーゼ試験・鏡検法・培養法・抗体測定・尿素呼気試験・糞便中抗原測定があるが、ABC検診では血中抗体測定法が用いられている。

堀越氏の検討は、健康診断でABC検診と胃X線検査を併用し除菌後および手術後症例を除いた受診者を対象として、胃X線検査の画像中の胃体部の胃粘膜構造とバリウムの付着性を見て評価し、ABCリスク分類の結果と比較したというものであった。

結果は、胃小区像が平滑および微細な画像をピロリ菌感染陰性、胃小区像が粗造な画像を陽性としてABCリスク分類と比較すると感度は89%と高く、バリウムの付着性も参考にするとピロリ菌感染の有無を判定するには有用で効率的であるとのことであった。

ABC検診は簡便な半面、胃粘膜の萎縮があったとしてもピロリ菌抗体価やペプシノゲン値が異常値を示さない偽A群や、ピロリ菌感染に由来しない胃がんが存在するとの意見もあり問題がないわけではない。

胃X線検査は、バリウムおよび撮影機器の高性能化に比べ技術的な向上があまり見られなかったが、これからの方向性を示唆する検討であるかもしれないと感じた。

今後の検査精度の向上に期待したい。

## 「MMG読影と病理」

原田病院 瀧澤 誠

済生会川口総合病院 土田 拓治氏による「MMG読影と病理」についての講演であった。

土田氏は、東京埼玉医用乳房画像研究会の世話人としており乳腺分野に精通している。

初めに、乳癌の疫学の話の中に驚かされることがあった。1990年代では、日本人女性の乳癌罹患患者数は25人に1人が乳癌罹患するといわれていたが、2010年には、12人に1人が乳癌罹患するということで

ある（国立がん研究センター 2010）。驚異的なペースで乳癌罹患者数が増加している。

埼玉県の乳がん検診受診率は 17.4% と高い数字ではない。啓蒙活動も重要と思われる。

講演は、乳房の解剖から乳癌の発育パターンまで、実際の画像や病理を提供していただき、分かりやすいものであった。

乳腺腫瘍の組織学的分類では、乳管内成分優位型、腫瘤形成型、浸潤型と三角形の図でどの位置に分類されるか解説していただいた。

カテゴリー分類と鑑別診断では、腫瘤、石灰化、FAD と読影のコツや悩んだ時のヒントをアドバイスしていただいた。

これからマンモグラフィに携わる人、認定試験を控えている人、認定更新を控えている人に、大変有意義な時間であった。

乳房 X 線検査は、適格な撮影装置を備え、日本乳がん検診制度管理中央委員会が開催している講習会を受講している者が検査を行うことが望ましいとされている。受講されていない方は、ぜひ認定技師を目指していただきたい。

土田さま、この場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

## 富士フィルムメディカル株式会社講演 座長集約

防衛医科大学校病院 野瀬 英雄

製品紹介では、富士フィルムメディカル株式会社 浅野 省二氏に一般撮影の最新画像処理として「ダイナミック処理」をご紹介していただきました。ダイナミック処理とは、被写体組織認証を採用して自動濃度調整を行い、被写体の持つダイナミックレンジを解析することで被写体全体を描出することが可能になります。

従来の処理では、画像の全領域のヒストグラムから関心領域を推定して S 値を算出するため、ヒストグラム形状によって、L 値の自動調整を行わなければなりません。しかし、ダイナミック処理では、被写体以外のもの、例えば、鉛の遮蔽物やインプラントなどの人工物をコンピュータが自動認識して、被写体のみを関心領域として把握し、ヒストグラムを生成してから S 値を決定することが可能になりました。従来の処理よりもコントラストの安定性が増したため、L 値は固定となりました。そして、画素ごとに被写体厚を推定し、L 値の範囲内に画像データが収まるようにダイナミックレンジ圧縮を自動調整し、被写体厚によるバラツキを抑えて安定した画像を生成できるようになりました。

従来処理とダイナミック処理の画像を併覧したところ、ダイナミック処理の画像では従来処理の画像と比較して被写体内の全領域においてコントラストが際立っていました。私的には少し強調が高めな感じが否めず、自施設に導入した場合、経過観察している過去画像との整合性を確認する必要があるように感じました。処理時間については、従来処理とあまり変わらずストレスは感じないとのこと。処理パラメータは従来処理と同様だそうです。

次に一般研究発表では、『一般撮影の線量管理 最新状況』と題して、同じく富士フィルムメディカル

の浅野氏に発表していただきました。内容は、富士フィルムメディカルが開発した放射線部門管理支援サービス ASSISTA Management (アシスタ マネジメント) についての説明でした。現在販売されている富士フィルムメディカルの F-RIS には、統計処理機能が搭載されており、患者情報や検査部位など、F-RIS の持っているパラメータから検査情報を抽出することが可能でした。しかし、抽出された情報から平均検査時間や再撮影率を求めるには、抽出データをエクセルに展開して統計解析する必要があり、ユーザーが求めている情報を入手するにはちょっとしたコツが必要でした。今回発表していただきました ASSISTA Management は、検査時間や再撮影率だけでなく、X 線撮影条件、S 値や EI 値、撮影機器稼働実績、IP 撮影実績、DR カセット衝撃リストなども分析することができるようです。ASSISTA Management は、リモートメンテナンスで使用するネットワークを介して、検査情報をデータセンターに送信。その情報からさまざまなグラフやリストの作成が可能になるようです。再撮影の画像のみをピックアップ、サムネイル画像としてリスト化することも可能で、画像検討会などで役に立ちそうです。今後、装置や検査室の稼働実績、技師の平均撮影時間の情報をデータとして蓄積されれば、そのデータを基に、各施設に適した検査運用支援システムを構築することもできそうな気がしました。

## 「研究のためのファントム作成について」座長集約

済生会川口総合病院 土田 拓治  
草加市立病院 佐藤 広崇

このたび、企画された「研究のためのファントム作成について」は、学会でもご活躍の4人の講師の方々より、非常にためになる講演内容であった。現在、診療放射線技師が学会などの研究において、倫理規定が厳しく人体での評価が困難であり、その代用としてもファントムの作成やスタディは非常に重要な位置付けとなっている。初めに、「DR 研究のためのファントム」の講演をされた 北里大学メディカルセンター 今花 仁人氏は、DR 研究の基礎となる物理評価について非常に分かりやすいお話をいただいた。物理評価においては、解像度や鮮鋭度を表す MTF、ノイズ特性を示す NNPS、それらを含めた NEQ、DQE は、定量的に機器間での評価が可能なツールとして位置付けられている。しかし、データ取得によって誤差が生じる事もユーザーは理解する必要があり、その誤差をなくすための工夫などを報告された。

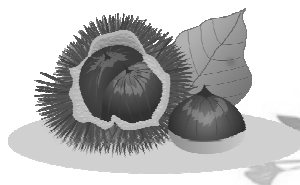
次に、「マンモグラフィ研究のためのファントム」の担当をされた獨協医科大学越谷病院 高橋 利聡氏は、今花氏の物理評価とは別に、ファントムを使用した視覚評価について報告された。物理評価は優れた評価ではあるが、画像の良し悪しの判断は人間の視覚特性が考慮されておらず、視覚評価を定量的に行い、そのエビデンスとして物理評価を行うことの重要性を述べていただいた。特に、デジタルマンモグラフィにおいては、トモシンセシスが普及されてヨーロッパの品質管理プロトコルで規格化されている。わが国においてもそれを参考にした品質管理ファントムが販売されているが、高価であるため各施設で普及率の高い安価なファントムでその代用を行うクリエイティブな考えが必要であることを述べられていた。

次に「CT 研究のためのファントム」について、済生会川口総合病院 城處 洋輔氏の報告では、最近主流となっている画像再構成法の逐次近似や単色 X 線等価画像（モノクロマティックイメージング）の物理特性評価法について、自作ファントムの作成法や工夫点や失敗談についてもお話しいただいた。今後、画像評価はタスクベースでの評価が必須となるため、自作ファントムの重要性について参考になった。また目的とする部位や疾患などを絞ることが大切であると述べられた。

最後に、「MRI 研究のためのファントム」は、埼玉医科大学病院 荒木 智一氏より報告された。コントラストファントム作成において、造影剤の濃度を調整しただけでは T2 値が組織と異なる値になるため、信号強度が実際の人体と異なった信号になってしまう。そのため、組織の T1、T2 の両値を目的臓器に近似できる自作ファントムの作成が重要になる。試料にはさまざまなものを使用されるが、今回は難消化性デキストリンと水溶性カルシウムの混合試料での検討について報告された。試料の配分を調整することで目的臓器の T1 値、T2 値に近似した自作ファントムの作成が可能となり、事例も踏まえて報告いただいた。

会場からもたくさんの質問があがり、皆さまの興味の高さを知るきっかけとなった。この企画は、続編としてどこかで行われることを願う。

## 第三支部



# 第三支部だより



第三支部理事 渡部 進一

秋麗の候、皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の第1回勉強会が6月17日(金)にウエスタ川越で行われ、地区会員の皆さまにおかれましては多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。内容は技師講演2演題で、荒木氏の「苦手を克服！肘関節MRIの撮像方法」は明日から職場でも試すことができ、また栗田氏の講演ではMRI認定取得に必要な講演をしていただき、これから目指す技師の参考になったと思います。次の特別講演では埼玉県診療放射線技師会の田中会長、富田副会長の両名に「職能団体における政治の役割」として診療放射線技師法の整備や政治への関与の必要性などをお話いただき、盛況のうちに終了することができました。

今号が発行されるのは“勤勉の秋”です。11月上旬には「埼玉CTコロノグラフィー研究会」、「支部合同勉強」が予定されていますので、ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。また12月にはウエスタ川越で行われる「第30回川越健康まつり」において医用画像展を開催致します。こちらにもぜひお越しいただき、お声を掛けていただければと思います。

### 【報告事項】

#### (1) 第1回 第三支部勉強会

ア. 開催日時：平成27年6月17日(金) 19:00～21:00

イ. 開催会場：ウエスタ川越 活動室1

ウ. 参加人数：44人

エ. 内容：技師講演

(ア) 「苦手を克服！肘関節MRIの撮像方法」

埼玉医科大学病院 荒木 美和 氏

「MRI認定における性能評価の解析方法について (ImageJ)」

埼玉医科大学病院 栗田 京助 氏

(イ) 特別講演

「職能団体における政治の役割」

公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会

会長 田中 宏 氏

副会長 富田 博信 氏



勉強会風景



## (2) 第1回第三地区役員会

- ア. 開催日時：平成 28 年 6 月 17 日（金） 18:30～19:00
- イ. 開催会場：ウエスタ川越 活動室 1
- ウ. 参加人数：7 人
- エ. 内容：川越健康まつり、納涼会、BLS 講習、ホームページ作成など

## (3) 第三地区 納涼会

- ア. 開催日時：平成 28 年 7 月 23 日（土） 19:30～21:30
- イ. 開催会場：甘太郎 川越店
- ウ. 参加人数：37 人



楽しい納涼会風景

## 【今後の予定】

## (1) 第1回 埼玉CTコロノグラフィー研究会 (SCTCM; Saitama CT Colonography meeting)

- ア. 開催日時：平成 28 年 11 月 10 日（木） 19:00～21:00
- イ. 開催会場：川越駅西口 ウエスタ川越
- ウ. 内 容：CTCの2次検査での役割

※SCTCM のホームページ <https://sites.google.com/site/sctcmeeting/lecture>

(2) 埼玉県診療放射線技師会 支部合同勉強会

ア. 開催日時：平成 28 年 11 月 12 日（土）12:30 受付開始～

イ. 開催会場：ホテルヘリテージ四季の湯温泉

ウ. 内 容：I. 支部発表：合同症例検討会

II. 技師講演：「被ばく相談やっていますか」

III. 特別講演：「SART のミッションと未来へ目指すべきビジョン  
～みんなのために！ひとりのために！～」

IV. 懇親会

※今回の会誌が発行される時には懇親会の締め切りが終了していますが、懇親会、懇親会+宿泊希望がございましたら、第三支部から担当者にお問い合わせ致しますので、支部理事までご連絡ください。なお状況によりご希望に沿えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

(3) 第 30 回 川越市健康まつり

ア. 開催日時：平成 28 年 12 月 11 日（日）10:00～15:00

イ. 開催会場：川越駅西口 ウェスタ川越 多目的ホール

ウ. 内 容：「あなたのための医療画像展」

第三支部ホームページ

<http://saitama3shibu.jimdo.com/>

**第四支部****第四支部納涼会報告**

萩原 貴之

平成 28 年 7 月 29 日（金）19：00 より「旬菜ダイニング浪漫」（熊谷市）にて、恒例の第四支部納涼会が行われ、会員・賛助会員合わせて 59 人の参加となりました。

今年は梅雨が長く、関東では前日にやっと梅雨明けとなりました。待ちに待った夏本番の訪れに、遠慮なく喉にビールを吸い込ませていきました。情報交換や日ごろのストレス発散（？）など大いに盛り上がり、施設や世代を超えて親睦を深めることができました。また今年は各地域のポケモン情報交換も盛んでした。

今後も会員の皆さまが参加して良かったと思えるような、またさらに多くの方が参加しやすい企画を提案していきたいと思えます。



みんなでイエーイ



会員の皆さま



今日の酒はうまい！



もう一杯！ちょうだい



ナイススマイル！



そろそろメ お願いします

## 第五支部



# 第五支部

## 情報交換会

場所は春日部市民活動センター〔ふれあいキューブ〕

10月26日 19:00～(予定)

11月24日 19:00～(予定)

12月22日 19:00～(予定)

詳しくは、HPなどでご案内致します。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

皆さまとのお話ができるような企画を考えております。

テーマなど皆様のご意見をお待ちしています。

ご参加ご協力をお願い致します。



第五支部理事 矢崎



### 情報交換会以外でもご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

地区の活動にご協力いただける方からのご連絡お待ちしております。

できる範囲の活動にかまいませんので気軽にご協力をお願い致します。



## 第六支部

埼玉県診療放射線技師会第六支部

1. 巻頭言 茂木 雅和
2. 平成 28 年度 第 1 回定期講習会報告
3. いきいきフェスティバル案内

## 巻頭言

## 『成長について考えてみた』

彩の国東大宮メディカルセンター 放射線科 茂木雅和

診療放射線技師国家試験に合格して、早 10 年になる。

この 10 年という長いようで短く、短いようで長い期間で、過去から見た 10 年後の今の自分はどれだけの人になったのだろうか？今一度、自分を見つめ直す機会と思い、成長について考えてみた。

2 歳になるわが子は、とても朝が早い。といっても目が覚めるのは 5 時くらい。夏なら朝日とともに、冬ならスズメとともに行動を開始する。布団の上を右往左往して朝の余韻を楽しんだ後、恰好のターゲットは父親だ。1 歳を過ぎたくらいでは『あー、うー』と言って起こされたのは懐かしく、1 歳半も過ぎれば『ばっば、○×△□、、、』と理解できるようでできない何かを発するようになる。子供の成長は本当に早いものだ。

自分も入職して 1 年や 2 年は、各モダリティーを覚えるのに必死で毎日が成長であった。まだ撮影した事のない体位方法や、画像の見方・ポイントに対して「全ては成長のため」と思い歯を食いしばって学びチャレンジして来た。時には失敗して、大目玉を食らうこともしばしばあったが、徐々に医師と対等に会話できるようになり、それなりに信頼を得られるようになってきた。今では先輩面を吹かせて後輩への指導係となっているが、当時の自分と重ね合わせると、絶対自分よりできると思う、、、だからこそ成長させてあげなくては。

教えてきた新人も 3 ヶ月も過ぎればある程度撮影ができるようになり、1 年も経てば放射線科の 1 人として数えられている。最初は答えられなかった症例も、聞けば即座に答えるさまを見ると、新人もわが子も成長のスピードは変わらないと思う。では、自分はどうか？その成長が現在も続けてできているのか？答えは言わなくてもわかってしまうのがなんだか悲しいが、それでも 10 年後の未来で戦う自分を想い、自分なりの速度で前に進んでいるんだ！と思いたい、、、。

朝起きると『パパ、起きてー。朝！起きてー。』と 2 歳になるわが子が言う。ほんの半年も前には理解できるようでできない何かであった言葉が、今でははっきりと伝わり、そしてはっきりと起こされる。これには聞いていないふりはできないわけで、しっかりと起こされようと心に決める。人の成長は本当に本当に早いものだ。

## 第六支部 平成 28 年度第一回定期講習会報告

彩の国東大宮メディカルセンター 放射線科  
小保方駿 石坂紗也加

去る平成 28 年 6 月 9 日、彩の国東大宮メディカルセンターにて埼玉県診療放射線技師会第六支部第一回定期講習会が開催された。今回の定期講習会では埼玉医科大学病院の高橋忍氏に「マルチモダリティでみる膝関節疾患」について、埼玉県診療放射線技師会会長の田中宏氏、同副会長の富田博信氏に「職能団体における政治の役割」について講演いただいた。

高橋氏による講演では、X 線画像、MR 画像中心に骨折所見、変形性膝関節症などの膝関節疾患について詳しく説明していただいた。当センターでは撮影を行っていないローゼンバーグ撮影の臨床画像とその有用性も知ることができ、大変勉強になった。その他にも人工関節術後の方を撮影する場合、関節面のポリエチレンの磨耗を見る為に関節面をどのように描出すべきかという点についても解説された。撮影のポイントを知るだけでなく膝関節画像の有用性についても再認識することができ、当センターで現在行われている膝関節撮影法をもう一度見直していきたいと考えさせられる講演であった。

田中氏、富田氏による講演では、診療放射線技師会の地域活動や診療放射線技師と政治との関わりについての内容であった。平成 27 年 4 月 1 日より診療放射線技師法の一部改正が施行された背景には、諸先輩方の診療放射線技師という職能に対する思いや法改正への行動力が形になったものであり、次のステップへの足がかりであるということであった。診療放射線技師のますますの発展のためにも、各々が政治に関して興味を持ち、周りに発信していくことで、診療放射線技師の未来が広がると感じた講演であった。

その後の施設見学では装置や検査方法について各施設で意見を交わすことができ、盛り上がりのある貴重な時間となった。最後にこのたびご講演いただいた方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げ結びとする。

## 埼玉県診療放射線技師会 第六支部

### 「彩の国いきいきフェスティバル」参加のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第六支部では、公益活動の一環として『彩の国いきいきフェスティバル』に出展し、放射線医療や診療放射線技師の役割について、県民の皆さまにご理解いただきたく、啓蒙活動を行いたいと思っております。

当日は、各種団体の催し物や、フリーマーケット、模擬店などが出展致します。会員の皆さま、ぜひ周りの方々をお誘いの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

敬具

- 1、日時：平成 28 年 10 月 30 日(日)10：00～15：30
- 2、会場：埼玉県県民活動総合センター
- 3、内容：パネル展示、被ばく相談、骨密度測定、クイズなど
- 4、参加費：無料

埼玉県診療放射線技師会第六支部



埼玉県診療放射線技師会第六支部

1. 平成 28 年度 納涼会 報告
2. 平成 28 年度 忘年会 案内

## 納涼会 報告

大宮中央総合病院 青柳 菜々

平成 28 年 7 月 14 日 Dining Café MARINA にて第六支部 納涼会が開催されました。当日は 32 人の会員が参加される盛大な会でした。講習会などでは聞けないような仕事の話やそれ以外の話を他施設の方とお話することで、たくさんの新鮮な発見がありました。同じ職業の人たちとお話をするのができて、あらためて他施設の方々との交流で見つける発見や驚きの多さにとても有意義な時間を過ごすことができました。これからも講習会などに積極的に参加して、広い視野を身に付けたいと思います。最後に、このような会を企画してくださった役員の方々に感謝申し上げます。

## 忘年会のお知らせ

第六地区忘年会を下記の通りに開催致しますので、お知らせ致します。時節柄、忙しいと思いますが、奮ってご参加ください。

- |       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 1. 日時 | 平成 28 年 11 月 24 日 (木)<br>19 時 00 分～ |
| 2. 場所 | 未定                                  |
| 3. 会費 | 未定                                  |
| 4. 備考 | 出席のお問い合わせは下記の連絡先<br>にお願い致します。       |

さいたま北部医療センター 竹内 信行  
tell : 048-663-1671  
mail : loveasahibeer2009@gmail.com